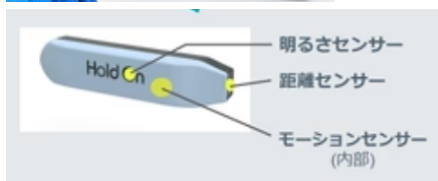


A. 開発物の説明

- 用途
 - 目の健康に関わる指標を常時計測するウェアラブルセンサ(目の健康管理支援のために使う)
 - センサ機器について
 - 既存の歩数計(等のセンサ)を、目の活動のセンサに置き換えるイメージ(例えば、瞬き計というイメージ)
 - 簡易設置できたい: 本センサ機器は眼鏡形状のアイウェアに簡便に脱着可能なモデルにしたい。任意のアイウェアで利用可にしたい。
 - センサ機器を使ったアプリの例
 - ※現時点はセンサ機器のみの開発を想定していますが、アプリ(スマートフォンアプリ、ウェブアプリ)の方でも今後開発予定です。
- センサ機器の簡易イメージ
 - 開発物の簡易イメージは、以下の①の製品(筐体、基盤、センサ、が大体同じ)に②のセンサを付けたものです。
 - ※アイウェアに脱着するスタイルにする都合で、以下の①のようなスタイルと想定しましたが、それ以外で選択肢があればご提示頂けると幸いです。

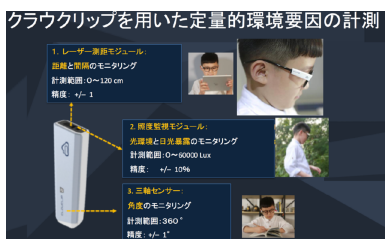
- ①アイケアクリップ

- <https://aiglasses.tokyo/products/eyecareclip>



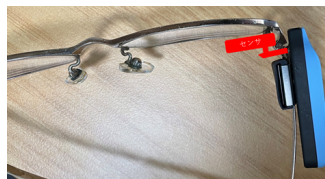
- ※以下はアイケアクリップとほぼ同じのクラウクリップ

- <https://i-doctor.sakura.ne.jp/?p=183>



- ②赤外線距離センサのパーツ

- 上の基盤に赤外線距離センサを下図の赤線先のように延ばして付けるイメージ
- この例では赤色の部分は適当に描いています。
- 赤外線距離センサは距離を測るセンサ。これを瞼の皮膚にあてて目の活動(瞬き)などを計測する。



担当可能箇所について

- 以下では、センサ機器関連(ハード、ソフト)の作成に関して、こちらで想定するブロックに分けてみました。
- 以下のうち、ご依頼可能なところがあれば伺えるでしょうか？ また、これ以外にも必要な段階があれば、ご依頼すると想定しているので、ご連絡いただけると幸いです。

①筐体の作成(四角い筐体部分のみ、赤外線距離センサを目まで延ばすパーツは含まない)

- 概要

- 筐体の作成(眼鏡に付けられるもの、アイケアクリップのようなものでよいと想定する)
- ※この部分では 目周辺に赤外線距離センサを伸ばすパーツは含まず、四角い筐体のみです。



- 内容

- Q

- 以下のどのステップまでが可能でしょうか？

- 1-1 試作の段階

- 以下の作成

- 仕様(形状、大きさ、材質等)、図面、その3Dデータ、等...
- 生成物(そちらで生成して郵送してもらおうorこちらでデータから生成する)

- ※

- 低費用な作成方法として、3Dプリンタを想定している(それ以外の適当な手段はあるでしょうか？)
- 3Dモデルデータを作成してもらおう。それをそちらで生成して郵送してもらおうorこちらで生成する
- サイズ等で改善(基盤のサイズとの兼合いで改善)の作業が何回かあると想定される。その場合、こちらで3Dモデルを微修正するか、そちらに依頼するかを想定、

- 1-2 量産の段階

- 作成した3Dモデルを、量産の受託をする外注先に、提出して発注
- 量産を受託する外注先は、その3Dモデルを基に金型を起こすなどすると想定

②基盤の作成

- 概要

- ここでの基盤とは、全パーツ(センサ、マイコン、バッテリー、抵抗、その他全て)が載ったものを想定する。以下のSTEP4までに筐体のサイズに収まるように作成する。

③搭載パーツに関する選定

④赤外線距離センサのパーツに関する作成(導線、筐体、形状、他)

- 概要

- 以下の図の赤線部分のような形状(何かの素材)にセンサがついたパーツを作成する。

